

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：平成 29 年 7 月 15 日 報告者：浅井 千春

行事種別	研究会	行事番号	170006396
開催日	平成 29 年 7 月 9 日 (日)		
時 間	開 始	10 時 00 分	終 了 16 時 30 分
場 所	名古屋市立大学医学部本部棟 4F ホール		
テーマ	「初心者歓迎!!日当直に役立つ尿沈渣の基礎」		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	豊川市民病院 永井 君子 特定医療法人衆済会 増子記念病院 平田 弘美		
講 師	1) 尿検査の基礎 公立西知多総合病院 服部 聡 2) 赤血球・白血球の見方 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 進藤 龍太郎 3) 上皮細胞の見方 JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 蜂須賀 大輔 4) 円柱の見方 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 伊藤 康生 5) 結晶その他の見方 国家公務員共済組合連合会 名城病院 池崎 幸司		
内 容	1) 尿沈渣の基礎について服部技師より講演頂いた。尿の検体の取り扱い方、尿定性検査、尿沈渣の作成方法や顕微鏡の扱い方、記載方法など基本的な検査についてお話頂いた。Aiccls より発行されている尿定性検査のリーフレットの活用や日頃困っていることの対処方法を“こんな時どうする？”と題して分かり易く説明して頂いた。 2) 尿沈渣の赤血球・白血球の見方について進藤技師より講演頂いた。赤血球、白血球の形態分類、間違いやすい成分、出現の臨床的意義についてお話頂いた。顕微鏡写真を多数提示し、分かり易く説明して頂いた。 3) 上皮細胞の見方について蜂須賀技師より講演頂いた。それぞれの細胞の特徴や鑑別方法など設問を交えながら説明して頂いた。異型細胞についても着眼点や、鑑別方法等について説明して頂いた。 4) 円柱の見方について伊藤技師より講演頂いた。それぞれの円柱の特徴や、鑑別方法、円柱のでき方等についても説明して頂いた。 5) 結晶その他の見方について池崎技師より講演頂いた。結晶の鑑別方法、特徴について、その他の成分については、細菌や真菌、混入物等について説明して頂いた。		
参加者	総数：109 名（会員 106 名、非会員 3 名）		
共催、後援など			

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：一般研究班 提出日：平成 29 年 12 月 12 日 報告者：浅井 千春

行事種別	基礎講座	行事番号	170015767
開催日	平成 29 年 11 月 19 日 (日)		
時 間	開 始	09 時 30 分	終 了 16 時 30 分
場 所	名古屋市立大学医学部研究棟 11 階講義室 (所在地名古屋市)		
テーマ	基礎を学ぼう一般検査!!初心者歓迎!!日当直に役立つ髄液検査・尿検査の基礎		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	1) 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 進藤 龍太郎 2) JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 蜂須賀 大輔 3) 国家公務員共済組合連合会名城病院 池崎 幸司		
講 師	1) 髄液検査の基礎 碧南市民病院 包原 久志 2) 異型細胞の見方 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 鈴木 康太 3) 赤血球について～形態の見方から症例まで～ 医療法人青山病院 平田 基裕		
内 容	<認定一般技師認定更新指定研修会：日臨技承認番号 一般 17-009 単位 20 単位> 午前中の第 1 講義では、包原技師より髄液検査の基礎を講義をしていただいた。体内における髄液の機能や解剖学的知見、髄膜炎における臨床症状について、さらに髄液検体の取扱い時の注意すべきポイントや、正常髄液の性状や様々な疾患における性状の変化、髄液細胞数算定における検査の進め方や髄液細胞の形態学的特徴と鑑別ポイント等の基礎的内容から、一般検査分野の細胞検査や生化学的検査項目の髄膜炎における臨床的意義まで、図説や細胞の写真、臨床においての検査のフローチャートを示しながら幅広く講演していただいた。 第 2 講義は鈴木技師による異型細胞の見方について講義を行っていただいた。各種正常細胞、異型細胞の形態的特徴や臨床的意義について、また、正常細胞と異型細胞を見分ける鑑別点を細かく解説して頂いた。 第 3 講義は平田技師より、赤血球について形態の見方につて講義をしていただいた。血尿診断ガイドラインでの基準や赤血球形態の表現の必要性など基礎を詳しく説明していただいた後、赤血球変形の機序について、近位尿細管から遠位尿細管までに起こる浸透圧変化と円柱が形成される場所と赤血球形態の関係につて解説していただいた。後半は、糸球体・非糸球体などの写真を沢山見せていただき受講生の理解は深まったと考えられる。今回一般検査業務の経験が浅い技師が多数出席されていた為、非常に有意義な講義であると考えられた。		

	午後からは、尿沈渣の基礎的成分を2班に分かれ、回遊式で検鏡実習を行った。実際に検鏡していただくスライド30枚の検体のカラー写真と解説を顕微鏡横に準備し、参考にしながら検鏡できるようにした。また、質問の出そうな検体の後ろに常時班員を配置し、随時質問に答えられる態勢をとった。また見落としてはいけない疾患（尿路感染症、IgA腎症、異型細胞）や標準化が問題となる（赤血球形態）や髄液検査のカウント・髄液検査でみられた異型細胞（AML）を症例として提示し、6班に分かれて検鏡を行った。まず検体を検鏡して、どんな成分が出ているか、疾患はなにが考えられるか推測してもらったあと解説し、その上でもう1度検鏡していただいた。日当直でしか尿沈渣を見ない技師や新人技師が、普段なかなか見られないイクラ状のろう様円柱、フィブリン円柱、結晶、マルベリー小体、尿路上皮癌由来の異型細胞や扁平上皮癌の浸潤由来の異型細胞なども供覧していただいた。間違えやすい成分についても標本を提示し、区別するポイントも学んでいただいた。 最後に参加者全員を6つのグループに分け、グループディスカッションを行った。班分けを経験年数や認定の有無でグループ分けし、それぞれのグループにあったテーマを班員とグループのメンバーで選択しディスカッションを行っていただいた。テーマは、経験年数豊富なグループでは形態の内部精度管理や教育・指導、5S、個人の力量評価、希少症例の報告・画像保存などについてディスカッションし、経験年数の浅いグループでは、指導されたときに困ったこと、日当直時に困ったこと、一般検査で知りたいことなどについて話し合った。ディスカッション後、各グループからディスカッションの内容を全体に報告していただき、総合討論を行った。内部精度管理や教育・指導などは、どのような規模の施設においても課題であり、情報の共有を行うことで各施設の運用の改善などに繋がることが期待される。また、これらのディスカッションにより、各施設における課題や教育重点事項を確認でき、今後の研究班活動に活かすことができると思われる。
参加者	総数：60名（会員58名、非会員2名、県外12名含む）
共催、後援など	

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：平成 29 年 12 月 19 日 報告者：安土 みゆき

行事種別	講演会		行事番号	170057358	
開催日	平成 29 年 12 月 9 日(土)				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 15 分	
場 所	名古屋第二赤十字病院 3 病棟 1 階研修ホール				
テーマ	1. 救急外来での検査～確定診断までの道のり～ 2. 尿沈渣から考える病態診断				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	名古屋第二赤十字病院 安土 みゆき				
講 師	1. 救急外来での検査～確定診断までの道のり～ 名古屋第二赤十字病院 第二総合内科部長 横江 正道 2. 尿沈渣から考える病態診断 藤田保健衛生大学医療科学部 星 雅人				
内 容	内 容 1. 救急外来に患者さんが到着してから確定診断に至るまでを、診断の流れ、診断のために必要な検査について感度、特異度、尤度比を用いて解説していただいた。救急外来に発熱の患者さんが来たときにまず何を考え何を検査するか、風邪、インフルエンザ、肺炎、感染性腸炎、敗血症、急性腎盂腎炎、髄膜炎などを例に挙げて検査と診断について詳しく説明していただいた。また、検査を行う上で鑑別疾患や、検査前確率の高さがポイントとなり,診断をする上でそれぞれの検査特性を知っておくことは医師として必要であること、目標がはっきりしない検査は検査結果に振り回されて的外れな診断を下すことになることと強く強調されていた。 2. 尿沈渣中の白血球が多い症例 4 症例について、病態を解明するためのプロセスを詳しく解説していただいた。				
参加者	総数 62 名（会員 61 名、その他 1 名）				
共催、後援など					

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属 一般研究班 提出日：平成 30 年 2 月 22 日 報告者：浅井 千春

行事種別	研究会（精度管理事業）	行事番号	170064435	
開催日	平成 30 年 2 月 10 日（土）			
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	17 時 30 分
場 所	名城病院地下大会議室（所在地 名古屋市）			
テーマ	平成 29 年度愛臨技一般研究班精度管理調査報告会			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司 会	名古屋大学医学部付属病院 岩崎卓識			
講 師	名古屋大学医学部付属病院	岩崎卓識		
	JA 愛知厚生連豊田厚生病院	鈴木康太		
	医療法人青山病院	平田基裕		
	社会医療法人明陽会 成田記念病院	望月理恵		
内 容	平成 29 年度の精度管理報告会として、昨年 8 月末に実施した一般検査分野の精度管理報告を行った。内容は、尿定性項目（蛋白、糖、潜血）と便潜血反応検査およびフォトサーベイ（設問 1～10、教育問題 11～20）についての結果の概要とその解説を行った。			
	前半の約 1 時間で、精度管理の尿定性項目、便潜血反応の項目の概要についての報告を岩崎が行い、その後、フォトサーベイについての結果と概要について岩崎・鈴木・平田・望月がリレー方式で報告を行った。時間は 15：30～16：15 であった。			
	後半の約 1 時間で、教育問題として出題した赤血球形態についての教育問題の解説を平田が行った。時間は 16：15～17：20 であった。			
	残りの時間を利用し、質疑応答がなされ、活発な意見交換がなされた。			
参加者	総数：57 名（会員 56 名、賛助会員 1 名）			
共催、後援など				